第6回　高津川河床掘削懇談会　議事要旨

日時：令和7年9月8日（月） 13:40～15:30
場所：益田市立水防センター
出 席 者 ：赤松委員、井上委員、塩満委員、広瀬委員、道根委員（50音順）

議事要旨：
＜会長選出＞
・本懇談会の会長については、規約第 4 条に基づき委員の互選によって定めることとなっている。会長の推薦についてご意見をいただきたい。（事務局）
⇒高津川のリバーカウンセラーをされている広瀬先生が適任かと思う。（委員）
⇒了承する。（委員）

＜規約の改定＞
・魚類の委員交代があったため、規約第 3 条の 2 の別表に示すとおり改定することを提案する。（事務局）
⇒了承する。（委員）

＜ネイチャーポジティブを踏まえた今後の段階掘削について　資料-1＞
・河床変動計算について、草地化・樹林化のプロセスは考慮しているか。（委員）
⇒草や樹木の成長は考慮していない。掘削後の状態を維持管理していくことを考えている。（事務局）
⇒竹は5年～10年で再繁茂すると聞く。樹林化の影響について配慮が必要と考える。（委員）

・今回の検討対象範囲は大臣管理区間であるが、今後、県が管理する上流区間の計画と擦り合わせていくようなことを考えているのか。（委員）
⇒今回は、今後数年で掘削する範囲を審議対象としているため、県管理区間は考慮していない。今後、河川整備計画を変更する際は、長期的・広域的変化を含めて河川環境を評価する必要があると考えている。（事務局）

・今回の検討では、指標種として、瀬を生息場所とするような高津川における特徴的な魚が選ばれており、選択としてはよいと考える。ただ、これまでアユの産卵に配慮し、産卵に適正な河床材料などを検討してきたが、保全の考え方は瀬があるかないかで判定するのか。瀬を構成する河床材では判定しないのか。（委員）
⇒今回の検討対象の掘削は、平水位以上を掘削するので、基本的には河床の状況はほとんど変わらないと考えている。河床変動シミュレーションの結果からも、粒径分布がほとんど変わらないことを確認しているため、瀬の数で判定することを考えている。（事務局）

・先行掘削をおこなった安富地区は、掘削後も河床材料に大きな変化はなく、出水があっても、概ね良い環境が保たれている。そのため、今後掘削する箇所についても、よい環境となるのではないかと推測している。（委員）

・産卵場は保全されるということになっているが、水産資源が増加してほしいので、産卵場が増えるような取り組みを検討いただければと思う。（委員）

・近年は、想定外の出水が起こるようなことも増え、実際に掘削してみないと分からない部分も多いと思うが、これまでの掘削後の状況から判断すると、今後の掘削箇所についても、良い状況になるのではと期待している。（委員）

・アユの産卵場の保全が河床掘削懇談会の主旨ではあるが、せっかく手を入れるのであれば、アユが増えてほしいというのが皆さんのご意見でもあるので、国土交通省と連携しながら、その点も考えて進めていきたい。（委員）

・昭和51年と現在の礫河原の面積の比較があったが、瀬淵の数も基本的には変わっていないか。（委員）
⇒淵については、航空写真から判定するのは難しいので確認できていないが、特に大きな変化はないと推測される。（事務局・委員）

・アユの生息生育には、餌場が大事であると考えるが、今後、外来種等によってその環境が変化する可能性があるのか。生態系的にアユだけを守れば良くなるわけではない。バランスをとるために対応すべきことがあれば教えていただきたい。（事務局）
⇒アユの生育環境としては、河床材料が小さい石の場合、コケが生える量が少ないので大きい石の方がよいが、下流域はそのような大きい石がない。また、最近は雨が少なく出水がないため、下流部は水温が高いことも多い。そういった面からも下流域はアユの生息・生育環境としては厳しい。ただし、産卵場は下流域である。近年、上流から産卵に適した石の供給が減っているので、下流の石を上流に戻す、砂防堰堤に溜まった石を下流へ流すなど、石が供給されるようにしてほしい。（委員）

・河川環境の維持には、川の攪乱が重要である。高津川は自然の流れが維持されているので、今後も注視いただければと考える。（委員）

以上